

大学院学校教育学研究科共同学校教育学専攻

学位プログラム



大阪教育大学

OSAKA KYOIKU UNIVERSITY

大学院学校教育学研究科 共同学校教育学専攻

取得できる学位：博士（教育学）

◆養成する人材

本共同専攻では、「高度な専門的知識・能力を持つ高度専門職業人の養成」と「確かな教育能力と研究能力を兼ね備えた大学教員の養成」を行います。

具体的には、以下の人材の養成を目指しています。

- ①教員養成大学・学部において必要とされる臨床的な研究力と教員養成に対する学識をともに備えた教員養成担当教員
- ②教育現場での実務経験を学部や教職大学院での教員養成に活かすことのできる実務家教員
- ③教員の資質向上と学校組織マネジメントに貢献する教員研修の専門家となる能力を持った人材

◆学位プログラムの到達目標（ディプロマ・ポリシー）

共同学校教育学専攻（博士課程）では、学校教育が直面する諸課題に対応し得る能力並びに教員養成系の学士課程・教職大学院を含む大学院課程等における高度な教員養成、または教育委員会における教員研修等を遂行し得る能力を獲得する。

本専攻において、所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けて作成した学位論文の審査並びに最終試験に合格し、臨床発達教育科学もしくは臨床教科学に関わる学校教育の諸課題についての研究を自立的、独創的に遂行する資質・能力を有すると認められた者に博士（教育学）の学位を授与する。

◆カリキュラム立案と実施方法についての方針（カリキュラム・ポリシー）

【教育課程編成の方針】

共同学校教育学専攻（博士課程）では、学校教育の臨床的研究に関する幅広い知識と深い理解に基づき、学校教育が直面する諸課題に対応し得る能力並びに教員養成系の学士課程・教職大学院を含む大学院課程等における高度な教員養成または教育委員会における教員研修等を遂行し得る能力を獲得し、我が国の教育課題解決と新しい時代の教育に寄与する質の高い教員を養成する大学教員や教員研修の専門家等を養成するために、以下のような教育課程を編成する。

・学位論文に関連する個別の研究課題を探究することにより臨床的研究能力を培うための課題研究科目

・学校教育及び教員養成に関わる諸課題についての理解を深めるとともに、学校教育に関する臨床的研究並びに教員養成に携わるために必要な知識とスキルを獲得させ、課題研究科目を方法論的側面から支える共通科目

・臨床発達教育科学・臨床教科学における諸課題を把握し、その研究方法論を理解することにより、実践的諸課題を探究するために必要な先進的かつ多様な知見を獲得させ、課題研究科目を内容論的側面から支える分野科目

【教育内容・方法に関する方針】

・課題研究科目では、個別の研究課題に関して演習と発表形式による授業を行う。

・共通科目では、学校で生起する教育事象の臨床的研究に関する高度な研究法の習得、教員養成に関わる今日的課題と大学教員の職業としての専門性の理解のために、講義、演習等による授業を行う。

・分野科目では、臨床発達教育科学の諸分野に関わる最先端科学の研究内容・方法論の習得、臨床教科学に関わる教科教育学と教科内容学を融合した形での内容論・教授方法論・教材開発の原理等の習得のために、講義、演習等による授業を行う。

・学位論文の研究においては、3大学の連携による指導体制の中で進める。

【学修成果等の評価の方針】

・学修成果の評価は、授業科目の目標を達成したことを確認するために、各授業の内容に応じて、筆記試験、口述試験、報告書等により、適切な評価の観点と方法を設定して行う。

・最終試験の評価は、学位論文の研究に関連する内容について、口述試験により可否を判定する。

・学位論文の評価は、本研究科の定める審査基準に基づき、3大学合同による学位審査委員会を設置して審査し、可否を判定する。

◆プログラムの履修要件（アドミッション・ポリシー）

共同学校教育学専攻（博士課程）は、北海道教育大学、大阪教育大学、福岡教育大学の3大学が共同して教育課程を構成している後期3年だけの博士課程であり、学校や教師が直面している様々な課題を解決するために、教育現場をフィールドとした臨床的研究に取り組むことのできる大学教員や、臨床的研究の知見を活かして課題解決を図ったり、高度な教員研修を遂行したりできる教員研修の専門家の養成

を行うことを目的とする。

本共同専攻は、大学院修士課程、専門職学位課程、教育現場や教育行政、大学等で培った知見や能力に加え、臨床発達教育科学または臨床教科学の理論知をもとに、臨床的研究に基づく「学校教育学」を修得し、教員養成学の体系的な構築を志向する人材を求める。

【求める学生像】

1. 明確な研究テーマを持ち、多角的かつ総合的な視点から自立的な研究を行うことができる人
2. 教育現場をフィールドとした臨床的な研究を遂行する上で必要とされる専門的知識、倫理観、行動力、総合的な判断力を有する人
3. 教育現場をフィールドとした臨床的な研究を遂行する上で必要な資料や文献を読解できる基礎的な語学力を有する人
4. 教育現場をフィールドとした臨床的な研究を遂行する上で必要とされる様々な人々との交流を深め、協働して学ぶことができる人
5. 自らの課題意識に則して、教育現場をフィールドとした臨床的な研究の重要性や必要性を理解している人

【入学前に身に付けておくべきこと】

1. 研究テーマを遂行するための基礎となる専門的知識
2. 研究テーマを遂行する上で必要となる文献読解等に役立つ基礎的な語学力
3. 研究テーマに関する明確な課題意識と課題解決への情熱

【入学者選抜の基本方針】

教育現場をフィールドとした臨床的研究により、学校教育の課題を明らかにすると共に、その課題の解決に向けた処方箋を教育現場等に還元する「学校教育学」を修得して質の高い教員を養成する大学教員や教員研修の専門家になりうる学生を選抜する。

志望する研究分野に関する専門的知識や必要な語学力などを備えているか、臨床的研究の必要性を理解しているか等を総合的に判断するため、書類審査・筆記試験及び口述試験によって、知識・技能、関心・意欲、思考力・判断力・表現力、主体性・協働性をはかり、選抜する。

1. 共同学校教育学専攻が養成する人材と3ポリシー（学位プログラム）

(1) 養成する人材

本共同専攻では、「高度な専門的知識・能力を持つ高度専門職業人の養成」と「確かな教育能力と研究能力を兼ね備えた大学教員の養成」を行います。

具体的には、以下の人材の養成を目指しています。

- ①教員養成大学・学部において必要とされる臨床的な研究力と教員養成に対する学識とともに備えた教員養成担当教員
- ②教育現場での実務経験を学部や教職大学院での教員養成に活かすことのできる実務家教員
- ③教員の資質向上と学校組織マネジメントに貢献する教員研修の専門家となる能力を持った人材

(2) 3つのポリシー

①ディプロマ・ポリシー

共同学校教育学専攻（博士課程）では、学校教育が直面する諸課題に対応し得る能力並びに教員養成系の学士課程・教職大学院を含む大学院課程等における高度な教員養成、または教育委員会における教員研修等を遂行し得る能力を獲得する。

本専攻において、所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けて作成した学位論文の審査並びに最終試験に合格し、臨床発達教育科学もしくは臨床教育学に関わる学校教育の諸課題についての研究を自立的、独創的に遂行する資質・能力を有すると認められた者に博士（教育学）の学位を授与する。

②カリキュラム・ポリシー

【教育課程編成の方針】

共同学校教育学専攻（博士課程）では、学校教育の臨床的研究に関する幅広い知識と深い理解に基づき、学校教育が直面する諸課題に対応し得る能力並びに教員養成系の学士課程・教職大学院を含む大学院課程等における高度な教員養成または教育委員会における教員研修等を遂行し得る能力を獲得し、我が国の教育課題解決と新しい時代の教育に寄与する質の高い教員を養成する大学教員や教員研修の専門家等を養成するために、以下のような教育課程を編成する。

- ・学位論文に関連する個別の研究課題を探究することにより臨床的研究能力を培うための課題研究科目
- ・学校教育及び教員養成に関わる諸課題についての理解を深めるとともに、学校教育に関する臨床的研究並びに教員養成に携わるために必要な知識とスキルを獲得させ、

課題研究科目を方法論的側面から支える共通科目

- ・臨床発達教育科学・臨床教科学における諸課題を把握し、その研究方法論を理解することにより、実践的諸課題を探究するために必要な先進的かつ多様な知見を獲得させ、課題研究科目を内容論的側面から支える分野科目

【教育内容・方法に関する方針】

- ・課題研究科目では、個別の研究課題に関して演習と発表形式による授業を行う。
- ・共通科目では、学校で生起する教育事象の臨床的研究に関する高度な研究法の習得、教員養成に関わる今日的課題と大学教員の職業としての専門性の理解のために、講義、演習等による授業を行う。
- ・分野科目では、臨床発達教育科学の諸分野に関わる最先端科学の研究内容・方法論の習得、臨床教科学に関わる教科教育学と教科内容学を融合した形での内容論・教授方法論・教材開発の原理等の習得のために、講義、演習等による授業を行う。
- ・学位論文の研究においては、3大学の連携による指導体制の中で進める。

【学修成果等の評価の方針】

- ・学修成果の評価は、授業科目の目標を達成したことを確認するために、各授業の内容に応じて、筆記試験、口述試験、報告書等により、適切な評価の観点と方法を設定して行う。
- ・最終試験の評価は、学位論文の研究に関連する内容について、口述試験により可否を判定する。
- ・学位論文の評価は、本研究科の定める審査基準に基づき、3大学合同による学位審査委員会を設置して審査し、可否を判定する。

③アドミッション・ポリシー

共同学校教育学専攻（博士課程）は、北海道教育大学、大阪教育大学、福岡教育大学の3大学が共同して教育課程を構成している後期3年のみの博士課程であり、学校や教師が直面している様々な課題を解決するために、教育現場をフィールドとした臨床的研究に取り組むことのできる大学教員や、臨床的研究の知見を活かして課題解決を図ったり、高度な教員研修を遂行したりできる教員研修の専門家の養成を行うことを目的とする。

本共同専攻は、大学院修士課程、専門職学位課程、教育現場や教育行政、大学等で培った知見や能力に加え、臨床発達教育科学または臨床教科学の理論知をもとに、臨床的研究に基づく「学校教育学」を修得し、教員養成学の体系的な構築を志向する人材を求

める。

【求める学生像】

1. 明確な研究テーマを持ち、多角的かつ総合的な視点から自立的な研究を行うことができる人
2. 教育現場をフィールドとした臨床的な研究を遂行する上で必要とされる専門的知識、倫理観、行動力、総合的な判断力を有する人
3. 教育現場をフィールドとした臨床的な研究を遂行する上で必要な資料や文献を読解できる基礎的な語学力を有する人
4. 教育現場をフィールドとした臨床的な研究を遂行する上で必要とされる様々な人々との交流を深め、協働して学ぶことができる人
5. 自らの課題意識に則して、教育現場をフィールドとした臨床的な研究の重要性や必要性を理解している人

【入学前に身に付けておくべきこと】

1. 研究テーマを遂行するための基礎となる専門的知識
2. 研究テーマを遂行する上で必要となる文献読解等に役立つ基礎的な語学力
3. 研究テーマに関する明確な課題意識と課題解決への情熱

【入学者選抜の基本方針】

教育現場をフィールドとした臨床的研究により、学校教育の課題を明らかにすると共に、その課題の解決に向けた処方箋を教育現場等に還元する「学校教育学」を修得して質の高い教員を養成する大学教員や教員研修の専門家になりうる学生を選抜する。

志望する研究分野に関する専門的知識や必要な語学力などを備えているか、臨床的研究の必要性を理解しているか等を総合的に判断するため、書類審査・筆記試験及び口述試験によって、知識・技能、関心・意欲、思考力・判断力・表現力、主体性・協働性をはかり、選抜する。